

育て!! 未来の発明家

ソニー創業者提案のクラブ発足

児童20人ものづくり

熊本市

子どもたちにもものづくりの楽しさを体験してもらおう「熊本市少年少女発明クラブ」の発足式が20日、西区の崇城大であり、1期生の小学生20人が道員の使い方を学んだ。



少年少女発明クラブは1974年、ソニーを創業した井深大氏の提案で始まり、公益社団法人・発明協会（東京）が全国200カ所以上で開講。荒尾市に次ぐ県内2カ所目のクラブを発足させようと、県発明協会などが準備を進めていた。

受講するのは、公募を経て選ばれた熊本市内の小学4～6年生。2020年3月まで月1回、崇城大教授らの指導を受け、コンピュータのプログラミングや科学実験、電子工作などを体験する。

発足式では、同クラブ会長の中山峰男崇城大学長が「発明には感じる力が大切。ものづくりを楽しんで、未来の社会を変える人になって」と励ました。

「ものづくりの基本は切ること」（同クラブ）として、子どもらは手始めにカッターナイフを使った鉛筆削りに挑戦。北部東小5年の吉田圭汰君は「弟が好きなロボットを作りたいから、プログラミングを覚えたい」と意欲満々だった。

カッターナイフを使って鉛筆削りに挑戦する小学生＝熊本市西区

（高橋俊啓）